



各局による

高知医療センター

- ▶ 薬剤局
- ▶ 看護局
- ▶ 医療技術局
- ▶ 栄養局
- ▶ 事務局

クオリティ・インディケーター (QI) / クリニカル・インディケーター (CI)

薬剤局における『医療の質向上への取り組み』

薬剤局長 山本 創一

薬剤局では、安全で適正な薬物治療を支援するために、薬剤師の病棟常駐、がん化学療法の安全管理、抗菌薬の適正使用や専門的医療チームへの積極的な参加など、様々な取り組みを行っています。同時にそれらの取り組みの一部については、客観的に評価する指標(クリニカルインディケータ)を設定し、薬剤局の業務の達成状況を確認しています。

表に平成27年度までの薬剤局のクリニカルインディケータを示しました。指標番号1,2の薬剤管理指導は、件数と実施率を指標として病棟で薬剤師の関わりがどの程度行えているかを評価したものであり、これにより入院患者さんに対する薬物療法の支援状況を確認しています。4年前より新設された病棟薬剤業務実施加算は、現在も薬剤師のマンパワー不足のため、1病棟1薬剤師を配置できず実施に至っていません。病棟薬剤業務は、医師等の負担軽減、薬物療法の有効性、安全性の向上に資する薬剤業務として位置付けられ、持参薬や処方の確認、医薬品情報の提供、管理、他の医療スタッフとの連携等により薬物療法を事前にチェックする「投薬前の患者に対する業務」とし、最終的には投薬計画を提案することを主体としています。薬剤局で実施している薬剤管理指導業務は、「投与後の患者に対する業務」も合わせてこの病棟薬剤業務も包括して行っており、実施率が100%になれば病棟薬剤業務実施も可能となると考えています。平成27年度は、薬剤管理指導の実施件数は16,399件と減少していますが、入院患者数も減少したため実施率は77.8%と増加しています。入院患者数の増減にかかわらず100%を目指すために薬剤師職員の確保が重要な課題となっています。薬剤管理指導業務の実施時には、医師、看護師な

どの病棟スタッフや患者さんからの相談を受けたり、医薬品情報を提供することが数多くあります。指標番号3と4は、病棟でいかに薬剤師の業務が定着しているかを確認する指標です。病棟スタッフからの相談、情報提供は、年間6,395件、平日1日当たり約26.2件(平日244日)でした。患者さんからの相談は、年間610件、平日1日当たり約2.5件、病棟スタッフからのものを合わせると1日当たり約28.7件で、病棟薬剤師1人当たり(7人)では、指導業務以外に約4件の相談応需と情報提供を行っていました。

抗MRSA薬は、TDM(Therapeutic Drug Monitoring)による治療効果と副作用の発現についてエビデンスがほぼ確立されており、抗MRSA薬の適正使用を推進する上で、TDMの実施は病棟薬剤師の重要な業務の一つです。TDM実施率は、主に入院患者さんのMRSA感染等に使用された注射用抗MRSA薬(バンコマイシン、テイコプラニン、アルベカシン)の血中濃度測定により薬剤師が直接投与設計を行った割合を示したものです。平成27年度の実施率は、86.2%と年々増加しており、今後も医師への啓発を含め、実施率100%を目指し、すべての入院患者さんに抗MRSA薬のTDMによる支援を行っていく必要があると考えています。

薬剤局では薬剤師の専門知識、スキルを高めるために、様々な研修や学会活動に積極的に参加しています。指標の6番目に薬剤局の各種資格取得者数を挙げましたが、平成27年度は、日本医療薬学会認定薬剤師が2名新たに加わりました。スペシャリストのみならずジェネラリスト育成も重要であり、今後も質の高い薬物療法を提供していくために、新規取得者の拡大や継続を支援していきたいと考えています。

薬剤局「薬学的管理の質」インディケーター 2015

指標番号	指標名称	H25	H26	H27	算出単位	分子/分母および備考						
薬剤1	薬剤管理指導実施件数(件)	15,599	17,560	16,399	年度	分子：－ 分母：－ 備考：入院患者への医薬品の適正使用と安全管理に対する薬剤師の貢献度としての指標						
薬剤2	薬剤管理指導実施率(%)	72.0	64.0	77.8	年度	分子：実施実患者数 分母：全入院実患者数 備考：入院患者への医薬品の適正使用と安全管理に対する薬剤師の貢献度としての指標						
薬剤3	病棟での医師、看護師等からの医薬品に関する相談と情報提供件数(件)	6,288	7,050	6,395	年度	分子：病棟での医師、看護師等からの医薬品に関する相談と情報提供件数(件) 分母：－ 備考：入院患者の薬物治療に関する薬剤師の貢献度としての指標						
薬剤4	入院患者からの相談件数(件)	2,128	1,497	610	年度	分子：入院患者からの相談件数(件) 分母：－ 備考：入院患者の薬物治療に関する薬剤師の貢献度としての指標						
薬剤5	抗MRSA薬のTDM実施率(%)	79.8	83.7	86.2	年度	分子：抗MRSA薬血中濃度測定患者数 分母：抗MRSA薬投与患者数 備考：抗MRSA薬の適正使用に関する指標						
薬剤6	薬剤局に関連する各種認定資格取得者延べ人数(人)	17	18	21	年度	分子：－ 分母：－ 備考：特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、薬剤師による薬物療法への支援業務の質が向上する						
	各種資格取得人数(人)			H25	H26	H27	各種資格取得人数(人)			H25	H26	H27
	日本薬剤師研修センター認定実務指導薬剤師			5	5	7	日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師			1	1	1
	日本医療薬学会認定薬剤師			0	0	2	日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師			2	2	2
	日本病院薬剤師会認定指導薬剤師			3	3	3	日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門薬剤師			2	2	1
日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師			2	2	2	日本臨床救急医学会救急認定薬剤師			2	3	3	

看護局における『医療の質向上への取り組み』

看護局長 田鍋 雅子

看護局では、2008年度より「看護の質評価指標」を想定し、改善目標として取り組みを進めてきました。2012年度からは看護局内に「看護の質評価委員会（現在は看護ケアの質委員会）」を設置し、指標の洗練化と規定した指標データを「改善目標としてのデータ」と位置づけ、PDCAサイクルを実践するための根拠として、データ収集と分析結果のフィードバックを行ってきました。2012年度から参加している「看護の質指標を用いたデータベースによるベンチマークシステムの試行調査事業」については、現在は、限られた一部の指標に留めています。

看護局からはこれまでと同様6つの指標データを報告いたします。指標①の「各資格取得人数」は、一定の専門性が証明された資格を有するものを資格取得者として報告しました。指標として挙げていませんが、専門知識、スキルを高めるために、さまざまな研修が受講できるよう支援しています。②は、一般的に経験年数5年以上の看護師はジェネラリストとしての臨床実践能力を備えていると言われており、当院の看護師の質を反映する一つの指標と考え、経年の比較をしています。③は、7.5%と若干低下していますが、全国平均の6.8%（平成26年度厚生労働省衛生行政報告例）を上回っています。男性看護師が増えることで、より幅広い看護の

提供につながると考えています。④は、新人看護職員研修の充実と病院全体で継続して新人看護師を育てていることの証であると考えています。限りなく100%に近い数値をめざしていますが、看護師のライフイベントを考えると100%の目標達成は現実的でないと考えています。⑤・⑥は、減少しているものもありますが、数値よりもカンファレンスによるチーム医療の推進、医療・ケアの質向上や家族及び職員のグリーフケアが行われたことによる効果に目を向けています。

2010年度から各部署のアクションプランに質評価指標となり得るような目標を設定し、定期的に達成状況を確認しながら質改善をめざした部署単位での活動を継続しています。質の評価指標としてまだ公開できる状況には至っておりませんので、公開できるよう検討を継続します。また、2014年度からケアの標準化をめざして作成した「○○ケア基準」は、認定看護師や専門看護師を中心にとしたチーム活動により定着しつつあります。

以上、看護の質向上に向けたさまざまな取り組みは、単なる“点検・評価”に終わらせずに、深く考察し、学び（Study）、共有して、次の Act につなげてゆけるような PDSA（plan-do-study-act）サイクルとして継続していきたいと考えています。

看護局「看護の質」インディケーター 2015

指標番号	指標名称	H25	H26	H27	算出単位	分子/分母および備考		
看護1	各種専門領域認定資格取得者率(%)	15.6	17.6	16.1	年度	分子：各種専門領域認定資格取得者数(詳細は下記) 分母：看護局所属の全職員数 備考：特定の専門領域の認定資格取得や研修修了者数は看護ケアの質に影響する(H25年度は106/681人、H26年度は122/693人、H27年度は113/704人)		
	各種資格取得人数(人)		H25	H26	H27	各種資格取得人数(人)		
	がん看護専門看護師	2	3	3	日本糖尿病療養指導士	4	3	1
	小児看護専門看護師	1	2	2	インターベンションエキスパートナース	9	11	7
	老人看護専門看護師	1	-	-	呼吸療法士	14	24	24
	母性看護専門看護師	1	1	1	消化器内視鏡技師	11	10	9
	精神看護専門看護師	-	1	1	リンパ浮腫指導技能者	2	2	2
	皮膚排泄ケア認定看護師	3	3	3	心臓リハビリテーション指導士	6	6	5
	感染管理認定看護師	2	2	2	日本癒治療学会認定データマネージャ	4	2	1
	集中ケア認定看護師	2	2	2	栄養サポートチーム専門療養士	1	1	1
	救急看護認定看護師	3	3	3	高知県臓器移植院内コーディネータ	3	3	3
	不妊症看護認定看護師	1	1	1	日本褥瘡学会認定師	1	1	1
	新生児集中ケア認定看護師	1	1	1	日本口腔ケア学会4級認定者	2	2	1
	脳卒中リハビリテーション認定看護師	1	1	1	ICLS インストラクター	8	7	6
	小児救急看護認定看護師	1	1	1	JPTec インストラクター	2	2	3
	慢性呼吸疾患看護認定看護師	1	1	1	AHA BLS インストラクター	2	4	1
	手術看護認定看護師	-	1	1	高知県看護協会災害支援ナース	2	2	2
	摂食・嚥下障害看護認定看護師	-	1	1	新生児蘇生法「専門」コース・インストラクター	2	1	3
日本看護協会認定看護管理者	4	4	6	ブракティカルCTG判読スペシャリスト	3	4	4	
第一種衛生管理者	4	4	4	アロマセラピー検定1級	1	3	3	
医療安全管理者認定	2	2	2					
看護2	経験年数5年以上の看護師の占める割合(%)	73.2	71.8	71.7	年度	分子：経験年数5年以上の正規看護師数 分母：看護師(正規職員)数 備考：一般的に経験年数5年以上の看護師はジェネラリストとして臨床診断能力や実践能力を備えている		
看護3	男性看護師割合(%)	7.5	7.8	7.5	年度	分子：正規男性看護師数 分母：看護師(正規職員)数 備考：男性看護師と女性看護師の考え方(視点)や、性差は看護の質に影響する		
看護4	新卒新人看護師3年定着率(%)	86.4	79.5	87.5	年度	分子：3年前の4月1日採用の新卒新人看護師のうち、データ抽出時点で勤務継続している看護師数(4月1日を起点とする) 分母：3年前の4月1日採用の新卒新人看護師 備考：臨床経験3年目は、クリニカルラダーレベルIIに到達し日常的な看護実践がほぼ単独で実践できる。医療チームの一員として役割を遂行できる看護師の確保は看護の質向上に繋がる		
看護5	多職種カンファレンス件数(件)	1,846	1,944	2,227	年度	分子：実施件数 分母：- 備考：チーム医療の実施状況を示すとともに、「多職種を交えて、効果的にカンファレンスが行われることが患者のニーズに沿ったケアやチームメンバー間の関係性の向上に結びつく」といわれており、協働を促進し共通の患者目標を持つことでケアの質が向上する		
看護6	デスカンファレンス実施率(%)	9.6	12.6	8.1	年度	分子：デスカンファレンス件数 分母：死亡退院患者数 備考：家族および職員のグリーフケアが行われた割合を示す		

医療技術局における『医療の質向上への取り組み』 医療技術局長 西川 智彦

医療技術局では、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、視能訓練士の7職種が、自分たちが提供している医療および技術が本当に質の高いものであるかを客観的に評価するため平成23年度より安全とサービス、技術の3つの分野(4つの指標)で機能を数値化し継続的に公表を行っています。

下記の表には指標別に、平成25年度から平成27年度までのクリニカルインディケーターの経時的推移を掲示しています。安全の面からMRI検査室への金属の持ち込みによるアクシデントの発生について、これは患者さんの安全・安心を確保するための大事な

値と考えています。

検査部門においては外来検査の報告に要した時間、病理迅速検査件数という事で患者さんへのサービスとして評価してきました。

また、技術の向上への指標としては医療技術局職員のスキルアップと専門性を高めるため、各種専門技術の認定資格を取得するよう努力した結果を数値で表しています。この4つの指標については、今後もこの数値を維持し質の高い医療および技術を提供して行きたいと思っています。

来年度は別の指標も選定し、取り組んで行きたいと考えています。

医療技術局「医療技術の質」インディケーター 2015

指標番号	指標名称	H25	H26	H27	算出単位	分子/分母および備考						
医技1	MRI検査室への持込禁止物によるアクシデント発生率(%)	0.00	0.00	0.00	年度	分子：持込禁止物の持込によるアクシデント発生件数 分母：MRI検査実施件数 備考：MRI検査では持込禁止物の持ち込みにより、強力磁石による吸着事故、高周波による火傷等の重大事故につながる。MRI検査の安全性を評価する目的で、持込禁止物によるアクシデント発生率を指標とした(H27年度は0/7,990件)						
医技2	外来検体検査の報告に要した時間(分)	11.5	11.3	11.7	年度	分子：ガス、生化学、血糖、CBC、凝固、尿の報告時間の統計 分母：ガス、生化学、血糖、CBC、凝固、尿の件数 備考：報告時間は、検体が検体検査室受付登録から、結果が電子カルテに送信されるまでの平均時間 H27年度の項目別報告時間は血液ガス2分、生化学25分、血糖11分、CBC5分、凝固16分、尿7分						
医技3	病理迅速検査件数(件)	387	394	459	年度	分子：組織診・細胞診の迅速検査件数 分母：-						
医技4	医療技術局に関する各種認定資格取得者数および取得者率(%)	60.7	75.0	81.0	年度	分子：各種専門領域認定資格取得者数(詳細は下記) 分母：医療技術局職員数 備考：各分野の専門技術の質が向上する (H25年度は37/61人、H26年度は51/68人、H27年度は60/74人)						
	各種資格取得人数(人)			H25	H26	H27	各種資格取得人数(人)			H25	H26	H27
	細胞検査士			2	2	3	摂食嚥下障害分野認定言語聴覚士			-	1	1
	認定臨床エンブリアロジスト			2	2	2	福祉住環境コーディネーター2級			-	2	2
	超音波検査士(血管領域)			1	1	1	核医学専門技師			1	1	2
	超音波検査士(循環器)			3	3	3	第一種放射線取扱主任者			2	3	3
	超音波検査士(消化器)			1	2	2	放射線治療専門放射線技師			1	1	3
	輸血検査技師			2	2	2	放射線治療品質管理士			1	1	2
	認定HLA検査技術者			2	2	2	検診マンモグラフィー撮影診療放射線技師			5	6	6
	認定心電検査技師			4	6	5	緊急臨床検査師			1	1	1
	認定管理検査技師			-	1	1	救急撮影技師			1	1	1
	認定技術師 脳波分野			-	-	1	放射線管理士			1	1	-
	認定技術師 筋電図・神経伝達分野			-	-	1	X線CT認定技師			-	2	2
	消化器内視鏡技師			-	-	1	医療機器情報コミュニケーター(MDIC)			3	3	3
心臓リハビリテーション指導士			4	4	5	医療安全管理者			-	1	1	
呼吸療法認定士			-	2	4							

栄養局における『医療の質向上への取り組み』 栄養局長 山下 元司

栄養局では、全国に先駆けて開院時から各フロアに管理栄養士を配置し、臨床栄養管理を実施してきました。この10年間で、栄養療法の重要性は、院内でも疾患治療の根幹だと認識され、各フロアの管理栄養士の必要性も当然のように認識されています。管理栄養士は、患者さんの治療経過と病状や臨床データを日々観察し、食事摂取量と共にモニタリング、アセスメントを行い、適切な栄

養介入を行っています。開設と同時に稼働してきたNST(栄養サポートチーム)の効果も得られています。更に、手術前後の食事の摂り方や、慢性疾患等の食事療法と、食生活改善についての栄養食指導を積極的に行い、早期病気回復、健康維持につながるよう努めています。

■各種認定取得の指標

高知医療センターの基本目標「医療の質の向上」に基づき、栄養局では管理栄養士の各学会等の認定取得を指標としています。認定取得を推進するために、学会発表や研修会に参加できるよう支援をし、積極的に認定資格取得にチャレンジしています。

■栄養指導実施率の指標

管理栄養士が、医師の指示の下に行う栄養指導の実施率を指標としています。管理栄養士は病状や、臨床検査データの推移を専

門的な立場で評価し、栄養指導の必要性を医師に提案しています。栄養指導を実施することで、患者さんの治療意欲が高まり治療効果が期待でき、退院後の食生活習慣改善等にもつながります。

透析予防チーム(医師・看護師・管理栄養士)の指導では、HbA1c、eGFRの改善効果が得られていますので、今後の指標として検討が必要と考えています。

栄養局「臨床栄養管理の質」インディケーター-2015

指標番号	指標名称	H25	H26	H27	算出単位	分子/分母および備考		
栄養1	治療食加算対象患者に対する栄養指導実施率(%)	39.4	37.5	40.8	年度	分子：個人・集団栄養指導の実施件数 分母：治療食加算対象患者数 備考：平成27年度は2,483/6,093件		
栄養2	栄養局に関連する各種認定資格取得者率(%)	150.0	133.3	144.4	年度	分子：各種認定資格取得者数 分母：栄養局所属の全職員数(詳細は下記) 備考：特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、管理栄養士による栄養管理および栄養治療の質が向上する(H25年度は12/8人、H26年度は12/9人、H27年度は13/9人、)		
	各種資格取得人数(人)					H25	H26	H27
	糖尿病療養指導士(日本糖尿病療養指導士認定機構)					4	4	5
	栄養サポートチーム(NST)専門療法士(日本静脈経腸栄養学会認定)					2	2	2
	TNT-D認定管理栄養士(日本栄養士会認定)					3	3	3
	日本病態栄養学会認定病態栄養専門師(日本病態栄養学会認定)					1	1	1
	日本病態栄養学会認定がん病態栄養専門管理栄養士(日本病態栄養学会認定)					1	1	1
医療安全管理者(日本病院会認定)					1	1	1	

事務局における『医療の質向上への取り組み』

事務局長 浅野 忠

事務局では、「高知医療センター経営計画」を策定し「経営の健全化」に取り組むとともに、医療現場がその機能を十分に発揮できるよう、人的及び物的な環境の整備をしっかりと行うことにより、県民、市民から信頼される高度急性期病院として高水準の医療が安定して提供できるよう努めています。

人的環境整備として、診療情報管理士や医療情報技師、医療ソーシャルワーカー等の専門職を採用するとともに、医師事務作

業補助者(医療秘書)による診断書や証明書、情報提供書等の書類の作成、学会関係のデータ登録や調査の実施等、医師の事務作業を軽減し、医師がより多くの時間を患者さんに向き合うことができるよう、体制強化に取り組んでいます。

今後も、より良質な医療が安定して提供できるよう取組を進めてまいります。

事務局「医療事務管理の質」インディケーター-2015

指標番号	指標名称	H25	H26	H27	算出単位	分子/分母および備考		
事務1	事務局に関連する各種認定資格取得者率(%)	54.0	50.0	54.5	年度	分子：事務局に関連する各種認定資格取得者数 分母：事務局所属の全職員数(詳細は下記) 備考：特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、事務職による医療事務の質が向上する(H25年度は27/50人、H26年度は27/54人、H27年度は33/55人)		
	各種資格取得人数(人)					H25	H26	H27
	診療情報管理士					9	9	10
	医療情報技師					4	4	5
	社会福祉士					9	10	10
精神保健福祉士					5	4	5	
事務2	医師事務作業補助者(医療秘書)	17	29	45	年度	分子：－ 分母：－ 備考：医師の事務的業務を補助することにより、医師が診療に専念でき、医療の質が向上する		